東日本大震災を経験して

大谷真奈美　伊東菜々美

昨年3月11日に起きた東日本大震災で日本中にたくさんの被害がありました。 私は震災が起きて1年7ヶ月たった今年10月に特に地震と津波の被害が大きかった岩手県釜石市に行き、ボランティア活動を行ってきました。日本では今、震災についての報道が少なくなってきています。だから私は被災地は時間と共に少しずつ復興してきているのだと思っていました。でも違いました。これは小学校の体育館の写真です。(写真)この小学校のすぐ隣は海で、8メートルほどの防波堤がありましたが、津波は防波堤を乗り越え、この体育館を飲み込みました。砂浜にはたくさんの瓦礫が積まれていました。もちろん、瓦礫はこれだけでなく、海を越えたくさんの国々に流れ着いています。流木や橋などの大きなもの航行障害になる上、プラスチック類は漂流に破片化し、鳥やアザラシが飲み込む被害も出ているそうです。また海岸に漂着すれば清掃が大変なことも問題になっています。この問題で環境を破壊するのは人間だけでなく自然も環境を破壊するということがわかると思います。

これは私が滞在したベースの近くの建物です。時計がありその時刻は震災があった2時46分で止まっていました。今見たとおり、いまだ手つかずの壊れた建物も多く、人々の心の傷はまだ全然癒えていませんでした。記念日症候群という震災があった3月11日はもちろん、毎月11日近くになると寝れなくなったり不安になるという方がたくさんいらっしゃいます。まだまだたくさんの時間と人の助けが必要なことがわかります。これまでは私はボランティアにいき見たものや感じたことを話していましたが彼女(伊東さん)は地震や津波とは違った形で被災しました。彼女の話を聞いてください。

私の住んでいた地域は地震や津波の被害が大きかった地域とは離れていますが、海を埋め立ててできた土地だったので、液状化という被害を受けました。液状化とは、砂などの粒がお互いにくっついて、その間に水があるという状態だった地面（図1）が、地震の揺れにより粒がばらばらになってしまい水に浮いた状態になり（図2）、水が出てきてしまう（図3）現象です。この現象では地表付近の地面が固体から液体になってしまいます。

この実験をご覧ください。
これは大げさではありません。ここに実際の写真があります。これは、学校の防球ネットです。基礎がしっかりしていなかったために、先ほどの実験の電灯のように倒れてしまいました。次の写真は浮き上がってきたマンホールを撮影したものです。中が空洞で軽いために普段は地面と同じ高さでしたが人の背丈ほどまで浮かんできました。これは実験で言うと白く軽いボールです。

最後にご覧いただいたこの写真は、私の学校の校庭です。地震が起こったとき、私は体育館にいましたが、避難のためにこの校庭に移動しました。すると、地面が突然割れて、水がどんどん噴き出してきました。それが校庭のあちこちで起き、避難できる場所がだんだんと

なくなっていきました。そのときの恐ろしさは今でも覚えています。現在、この校庭では液状化対策の工事が行われています。水分を含んだやわらかい地面を掘って穴をあけ、乾いた固い砂を詰めていくことで地面の密度を高くしています。こうして液状化対策を行うことで、また災害が起きてしまったときに市民を安全に避難させる場所を作っているそうです。この工事には多大なる費用かっているようです。市内にある東京ディズニーランドは1カ月以上休園を余儀なくされました。

　　また、被害はこれだけではありません。ライフラインの復旧などにも時間がかかりました。特に地震により被害を受けた下水道の復旧には１カ月かかり、その間はトイレが使えなかったり、風呂に入れなかったりと衛生的に良くない状況にもなりました。　他にも、経済的な被害もありました。土地の価格は下落し、市内にある東京ディズニーランドは1カ月以上休園を余儀なくされました。日本全国で見ると１６兆９０００億円の被害がありました。このように、液状化は人々にも経済にも大きな影響を与えてしまいます。ですから、事前にこの問題を知っておくことが必要だと思います。私はもともとこの問題を聞いたことさえありませんでした。だから実際に被害にあったときに驚き、何をすればいいのか全く分かりませんでした。けれど、もし知っていたのなら落ち着いた行動が出来たと思います。この違いは大きいと思います。そして対策を考えていくべきです。減災対策は多額の費用がかかりますが、いくらやってもやりすぎにはならないと私は思います。だから、できる限りのことはするべきです。

　しかしこの問題を通して、人間が作るものは完璧ではないこと、何か自然を破壊して利益を得ても、しっぺ返しが来ることが分かると思います。これはこの液状化に限らず様々な問題でも言えることです。環境を壊すような開発が果たして良いことなのかも含め、これから積極的に考えていくべきだと思います。　けれど、震災で起きたことは悪いことだけではありませんでした。私はその中で日本人の素晴らしさを感じることが出来ました。　私が一時的に避難した小学校の体育館では非常食が配られました。そのなかで、遅れたちいため非常食がもらえなかった小さな子どもがいました。そのとき、私は多めにもらっていたので、ゆずろうとしました。すると、その前に小学校低学年くらいの子どもが「あげる」と言って自分の分を渡しました。私はその様子を見て驚きました。自分よりも何歳も小さな子どもでもゆずりあいや助け合いのこころをしっかりと持っていたからです。これは、普段日本人が日々信頼しあうことを大切にしてきたからこそできた行動だと思います。

　私がボランティアへ行った時ほかのボランティアさんに教えてもらった言葉があります。
　「やりたい人 1万人、やる人 100人、続ける人 1人」
　私はさまざまな人達のお陰でやる人100人のなかに入ることができました。
　でも私は続ける1人でありたいと思っています。時間の経過＝復興ではありません。今のような状況から復興するためにはまだまだたくさんの人の助けが必要で、それも一時的なことではなく、継続が必要なことを被災地へ行き、強く感じました。一人ひとりは小さな力しかもっていないかもしれません。でも小さな力を集めると、続けると、大きな力になります。
　この大きな力で地球を変えるのは私たちです。一緒に地球を変えていきましょう！
　ご清聴ありがとうございました。